

## 平成23年緑化推進運動功労者 内閣総理大臣表彰受賞者・功績概要

### [個人]

又吉 康仁 (沖縄県那覇市)

### [団体]

高松コスモスライン運動推進協議会 (秋田県湯沢市)  
尺丈山「百樹の森」  
森づくりボランティア協議会 (茨城県常陸大宮市)  
四方ガーデニング愛好会 (富山県富山市)  
興津川保全市民会議 (静岡県静岡市)  
キリンディスティラリー株式会社  
富士御殿場蒸溜所 (静岡県御殿場市)  
南伊豆町農業振興会 (静岡県賀茂郡南伊豆町)  
蟹江町 (愛知県海部郡蟹江町)  
特定非営利活動法人 自然回復を  
試みる会 ビオトープ孟子 (和歌山県海南市)  
世羅町立伊尾小学校 (広島県世羅郡世羅町)  
東温市立西谷小学校 (愛媛県東温市)  
特定非営利活動法人 天明水の会 (熊本県熊本市)  
鹿児島市立吉田北中学校 (鹿児島県鹿児島市)

[個人]

---

ま た よ し      こ う じ ん  
又 吉 康 仁

(昭和13年5月18日生 72歳)

---

住 所 沖縄県那覇市首里久場川町1丁目77番地4号

---

<功績の概要>

氏は、昭和36年から県立高等学校教諭として各赴任校において緑化活動を教育の一環として献身的に取り組み、昭和58年の県立浦添工業高等学校開校と同時に赴任し「潤いのある教育創造を求めて」をテーマに、育苗、植樹、手入れまで計画的な緑化を手がけ、15年にわたり生徒とともに校地内外の緑化を行った。

当校は各種緑化コンクールで次々と表彰され、平成6年には全国学校関係緑化コンクール特選を受賞した。氏は、当校を全国屈指の緑化校に育て上げ、それを契機に県内各学校の環境緑化意欲が高揚し、学校緑化は飛躍的に進んだ。

教職退職後、同氏はふるさとの名護市に「天地緑風の里」という約700坪の里山を7年間かけてつくりあげた。「天地緑風」とは、氏が環境教育を展望する目標語として生んだ造語で、「青春の森のそよ風が天地を吹きぬけて、地球を育む緑風に我らの夢をひらく」という思いを込めている。この里では、自然の傾斜を生かし、季節の作物を無農薬栽培しており、独自のアイデアで周囲の樹木を階層構造を生かした防風林として造り上げている。

このような緑化活動、里山づくりの結果、天地緑風の里は、県内外から見学者が訪れ、氏を講師に緑化研修会が開催され、他の見本となる里山となっている。

現在も継続して、ふるさとで農村地域の緑化と環境に調和した農業に努めながら、環境緑化の指導及び普及、環境教育の進展に大きく貢献している。

[団体]

---

たかまつ うんどうすいしんきょううぎかい  
高松コスモスライン運動推進協議会

---

所 在 地 秋田県湯沢市高松字上地6番地2

代 表 者 会長 大友 一郎

---

<功績の概要>

昭和60年、秋田県湯沢市高松地区に県道湯沢栗駒公園線のバイパス道路が完成し、当地区への交通アクセスが改善された事を契機に、地域の活性化に向けた話し合いが行われ、昭和62年4月、訪れる観光客を花で迎える美化運動「コスモスライン」運動(以下「運動」と称する。)が計画、提唱された。

この運動は、バイパス沿いの老人クラブが主体となり、約1kmにわたってコスモスの種を蒔いたことが第一歩となる。その後、直播きから育苗・移植に変更。苗植えには市立高松小学校の児童も参加し、異世代間交流と地域づくり運動推進の手応えを感じことになった。

平成元年には植栽範囲を2km、翌年には7kmまで延伸し、地区全体の運動へと拡大した。これに伴い、関係団体の話し合いにより、種子採取と育苗は老人クラブ、年に3~4回の除草作業は各集落の自治会が担当することになった。

平成3年4月には運動の推進組織「高松コスモスライン運動推進協議会」が結成され、平成6年春には高松地区の入口にミニ公園「コスモスパーク」が完成し、運動に一層の花を添えている。

現在では、地域の事業所の協力も得て、植栽延長が14km、約6万本を植え付けし、緑化意識の高揚を積極的に推進した地域活動を展開している。

[団体]

---

しゃくじょうさん ひやくじゅ もり もり きようぎかい  
**尺丈山「百樹の森」森づくりボランティア協議会**

---

所在地 茨城県常陸大宮市高部5281番地1

代表者 会長 岡山 昭一

---

<功績の概要>

同協議会は、平成9年から尺丈山を整備・管理してきた常陸大宮市(旧美和村)の「百樹の森部会」を前身とし、市主体の森林づくりを地元ボランティアが主体となって運営する体制へと移行する形で平成15年に設立された。

現在の会員数は99名(平成22年9月4日現在)となっており、約6割は地元常陸大宮市内の住民だが、東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、栃木県在住の会員もあり、森林づくりの輪が広がっている。

同協議会は、「本物の自然のふれあいが楽しめる、将来の資産づくりを市民総出で創造する」をテーマに、年1回の総会、年3回の幹事会で計画した植栽、下草刈りなどの森林整備を実施するほか、他団体との交流や情報交換、山火事防止のPRや会報の発行などを主な活動としている。

さらに近年は、森林整備促進へ向けたセミナーでの活動報告や地元市内小学生対象の下刈り体験での指導など、地域社会との関わりを深める方向へも活動の場を広げている。

これらの活動を通じ、自然とのふれあいを深めるとともに、百樹の森と自らの人生とを豊かにし、次世代へと引き継ぐこととしている。

[団体]

---

よかた あいこうかい  
四方ガーデニング愛好会

---

所在地 富山県富山市四方田町45番地2号

代表者 代表 蟻谷 忠夫

---

<功績の概要>

平成元年に四方自治振興会を母体として設立された同会は、電車の廃線跡地に整備された、約100mに及ぶ自転車・歩行者道路の両脇に花壇づくりを行い、訪れる人々を楽しませている。また隣接する小学校・保育所へ花壇づくりの指導を継続的に行い地域の緑化活動に大きく貢献している。

これらの活動により、小学校・保育所や地域の住民といった広い世代間でのふれ合いと交流が生まれ、「人の和(輪)」が広がっている。

県内外の花壇コンクールにおいて優秀な成績を修めると同時に、(財)花と緑の銀行が主催する「富山県花のまちづくりコンクール」において、平成17年より5年連続で、最高評価の五つ星推奨花壇に認定されるなど、模範的花壇として評価を受けている。

また、(財)花と緑の銀行が平成21年より実施している、「とやまオープンガーデンマップ」に参加しており、毎年県内から多くの花づくりグループが視察に訪れるなど、富山県の花づくりの勉強や交流の場として大きな役割を果たしている。

[団体]

---

おきつがわほぜんしみんかいぎ  
興津川保全市民会議

---

所在地 静岡県静岡市葵区追手町5番1号

代表者 会長 後藤 康雄

---

<功績の概要>

同会議は、流域面積120km<sup>2</sup>、静岡市清水区約24万人の主たる水源である興津川流域の豊かな自然環境を守るために、平成6年8月に、市民・企業・行政が一体となって設立され、その保全活動に積極的に取り組んでいる。

同会議では、平成7年より「森林探検隊」と称し、毎年秋に、一般公募した小学生と保護者を対象に、興津川上流の森林において、立木の伐採やチェーンソーを使っての丸太切り、火起こし体験、自作の竹の器で山や川の恵みを食する等の体験を通して、山と川を保全する意識を育み、環境保全の大切さを次代に継承することに貢献している。

また、平成11年より「市民の森づくり」事業として、会員や一般公募した市民とともに、林道整備、植樹場所づくりのための地拵え、植樹、下草刈り等の作業を年3～4回行い、日常生活における森林の果たす役割や森林保全の重要性を市民に理解していただくなど、水源保全、森林保全意識の高揚、普及啓発に大きな成果をあげている。

さらに、設立10周年記念事業として「清流のうた」を一般募集により作成し、CDの制作やコンサートを開催するとともに、平成22年6月からは、ホームページを開設するなど、森林保全活動の更なる普及に努めている。

[団体]

---

かぶしきがいしゃ  
キリンディスティラリー株式会社  
ふじごとんばじょうりゆうしょ  
富士御殿場蒸溜所

---

所在地 静岡県御殿場市柴怒田970番地

代表者 代表取締役 小高 正寛

---

<功績の概要>

同社は富士山麓の自然環境に恵まれた御殿場市に位置し、昭和48年操業以来、「あらゆる活動、製品、サービスの面において、地球環境の保全に配慮した行動をとり、良き企業市民として社会に貢献する」ことを基本理念としている。また、環境目標を定め、生産工程から全従業員への教育・啓蒙活動に至るまで周知徹底を図っている。

工場敷地全体約16.9haの内、緑地は約7.7haあり、建設開始の昭和47年に地元自治体と締結した緑化協定を守り、概ね50%という高い緑化率を保ち続ける。

富士山を背景に自然林(クヌギ、モミ等)ができるだけ残し、敷地周辺部に同種の樹種や落葉樹を約2万2千本以上配置している。

同工場は緑化を通じて地域に密着した活動を行っているのが特徴であり、工場敷地内に「キリン自然の森」を整備し、地域開放、NPOと共に高校生へ環境教育の実施、御殿場市が計画する「たかねの杜」の整備拠点として提供、同事業への協力などを行っている。また平成18年からは、富士山水源涵養林のうち約43haの森林を借り受け、グループ会社や地域と共に森づくりや富士山麓の水の恵みを守る活動を毎年実施し、その活動と合わせ、参加した子供たちを対象とした「森の環境教室」を開催している。

[団体]

---

みなみいづちようのうぎようしんこうかい  
南伊豆町農業振興会

---

所在地 静岡県賀茂郡南伊豆町下賀茂328番地の2

代表者 会長 金子 勲

---

<功績の概要>

同会では、平成4年9月から「元気な百姓祭り」と銘をうち、当会主催による荒廃農地の草刈作業を実施し、翌年からは草刈後、景観植物である菜の花を播種したことにより、一面の菜の花畠となった。

この「元気な百姓祭り」は年々定着し、現在、約3haの菜の花の播種と約2haの草刈作業を実施し、今年で19年目を迎え、農業関係者、観光関係等各種団体、小中学校、一般町民250名が参加し、町を挙げての取り組みとなった。また、夏季においては3haの内80aに約3万本の向日葵を植栽し、帰省客、海水浴客の目を楽しませている。

この取組により、町内各地では、河川敷、耕作放棄地に景観作物である菜の花が蒔かれるようになり、南伊豆町における耕作放棄地対策はもとより、観光地としての地域緑化・美化推進及び啓発に大きく貢献している。

また、この菜の花畠は、2月に開催され約40万人の来訪者を迎える一大イベント「みなみの桜と菜の花まつり」の会場として利用、期間中に「菜の花結婚式」も挙行され、観光資源としての価値も高まり、地域住民だけでなく、来訪する都市住民の環境意識の高揚、緑化思想の普及啓発に大きく貢献している。

[団体]

---

かにえちよう  
蟹江町

---

所在地 愛知県海部郡蟹江町学戸3丁目1番地

代表者 町長 横江 淳一

---

<功績の概要>

同町は、名古屋の西に位置し、蟹江川、佐屋川、善太川などの河川が南北に流れしており、特に蟹江川は水上交通の要所として栄えてきた。現在は、自然との共生を目指し、輝きと潤いのある町を町民と一緒に築いている。

同町の水郷景観と環境をよみがえらせるために町民ぐるみで水郷の里再生計画(①自然環境の再生、②水郷型公園の整備、③川を活かしたイベント・レクリエーション活動の活発化、④河川周辺の景観整備、⑤市街地緑化の推進など)を展開している。川とともに花や緑を慈しみ、育て、街を彩り、生活を楽しむため、多くの人々や団体が活動している。

「富吉コミュニティ推進協議会」では、花いっぱい運動を展開し、地区内で希望される方の個人宅の前にプランターを置き(有料)、季節ごとの花を植え、町内景観を創出している。平成9年には近鉄富吉駅前に花時計を設置しさらなる景観向上に努めている。

そのほか、蟹江川をきれいにする会が、年2回の蟹江川の清掃、河川パトロール、年2回(夏・冬)の町内の水質調査(12カ所)、年3回のプランターの交換、春・秋の花の植栽を行い、蟹江川の景観を創出している。

[団体]

---

とくていひえいりかつどうほうじん しぜんかいふく こころ かい  
特定非営利活動法人 自然回復を試みる会  
もうこ  
ビオトープ孟子

---

所 在 地 和歌山県海南市孟子犬飼906番地

代 表 者 理事長 北原 敏秀

---

<功績の概要>

同会は、荒れた里山の自然環境再生を通じて、地域住民の緑化思想の醸成を図るとともに、地元小中学校と連携した環境教育の推進に貢献している。

具体的には廃耕田をビオトープとして再生し、その保全と里山一帯に生息する動植物のモニタリング調査を実施。その結果、現在希少種を含め800種を超える昆虫類や120種を超える鳥類が確認される生態系を取り戻すまでになり、平成19年には同会が主催する自然観察会において全国でも非常に貴重とされるカトウツケオグモも確認された。その他、炭焼きや植樹等の里山保全活動、無農薬稻作の実践による稻作水系の保全などの活動を行っている。一方、平成16年「みどりの日」自然功労者環境大臣表彰受賞後も、身近な自然環境の保全をテーマとしたフォーラムの開催や、和歌山県環境学習アドバイザー派遣事業への講師派遣など、より一層地域や行政と連携した活動を展開。平成21年12月には、県内中学校とともに行っている水田生態系調査と森林性鳥類調査が、孟子不動谷生物多様性活性化プロジェクトとして(社)日本ユネスコ協会連盟の第1回プロジェクト未来遺産に登録された。

また、このような精力的なボランティア活動などが評価され、平成22年5月和歌山県知事表彰を受賞している。

[団体]

---

せらちようりついおしょうがつこう  
**世羅町立伊尾小学校**

---

所在地 広島県世羅郡世羅町伊尾1969番地1

代表者 校長 計田 春樹

---

<功績の概要>

同校では、環境学習を中心に、地元住民、行政が支援する形でギフチョウ保護区での希少種であるミヤコアオイの保全、移植や河川区域内の保護区の草刈活動等、環境整備に取り組んでいる。活動は、地元住民だけでなく、多様な団体と連携し、活動を分担して実施している。

保護活動は観念的なものではなく、ギフチョウの観察、研究を行うとともに、研究成果を県内外に発表し、自然保護思想を啓発するなど、保護の実践につながるような活動を行っている。

これらの活動は、今後の自然保護活動の一つのモデルを提示するものであり、地域全体に生き物と暮らしを結ぶ楽しさを伝えている。

<主な功績>

- ギフチョウ保護区におけるミヤコアオイの植草活動
- ギフチョウ保護区の草刈り活動

[団体]

---

とうおんしりつにしだにしょうがっこう  
東温市立西谷小学校

---

所 在 地 愛媛県東温市則之内乙835番地

代 表 者 校長 富長 千恵美

---

<功績の概要>

同校は、四国山地から流れる井内川に沿った長い谷間を校区とし、四季の変化を肌で感じ取ることができる豊かな自然に囲まれた立地条件を活かして、環境問題解決への強い思いと、社会に貢献できる生きる力をもった児童の育成を目指して、環境学習に取り組んでいる。

明治39年の開校当初から学校林整備活動を実施し、昭和53年度の緑の少年団発足後は、より組織的な環境学習に取り組み、平成14年から学校林と学校林を水源とする棚田をフィールドとして開始した「自然体験教室」では、学校・保護者・地域住民が一体となって活動するなど、地域全体で自然保護意識を醸成している。

また、平成18年には「環境サミット」と題して、海や川など異なる環境を活動フィールドとする小学校や高等学校と共に森と海のつながりをテーマとした交流活動を行うとともに、平成19年度以降も絶滅危惧種の植物保全のため農業高校生との交流を続け、多様な環境保全の必要性を理解し、互いの活動意欲の向上を図っている。

これらの活動成果は、児童の手によって地域内外へ広く発信され、新たな活動提案をするなど、環境保全活動の活性化に大きな役割を果たしている。

[団体]

---

とくていひえいりかつどうほうじん てんめいみず かい  
**特定非営利活動法人 天明水の会**

---

所 在 地 熊本県熊本市川尻4丁目7番25号

代 表 者 理事長 濱邊 誠司

---

<功績の概要>

同団体は、平成5年、有明海からアサリが消えかけたことに端を発し、豊饒の海を取り戻すため、緑川上流域の山に、全国に先駆けて「漁民の森」として植林を始めた。以来、水の大きな循環を通して地球環境を考え、会員の自主的な活動によって地域の発展と文化の向上を目指したまちづくりや人材育成を目指している。

具体的な活動として、漁民の森、天明未来の森、若者の森など上流域における植林活動や下草刈り、下流域と上流域のネットワークづくり、小、中、高校生を対象とした自然体験や環境教育等を行うとともに、「森の学校」を作り拠点づくりも行っている。特に平成13年度からは農林水産省の補助事業である「漁民の森づくり活動推進事業」に取り組み、子どもたちや地域住民と共に、緑川流域をはじめとする県内の山々に多くの森づくりを行い、現在もその活動を継続、発展させていく。

平成15年4月にはNPO法人の資格を取得した。活動に当たっては、他団体にも幅広く参加を呼びかけ、現在までに延べで参加団体数50以上、参加人員は6,000人にのぼっており、参加団体間での交流が生まれるなど、環境保護のみでなく教育、地域連携にも大きな成果がみられる。

[団体]

---

かごしましりつよしだきたちゅうがっこう  
鹿児島市立吉田北中学校

---

所在地 鹿児島県鹿児島市西佐多町269番地

代表者 校長 谷口 幸一郎

---

<功績の概要>

同校は、平成6年から、ボランティア活動普及事業の研究指定校として研究を進める中で、美化活動やボランティア活動の実践を積極的に推進し、現在も環境緑化について「気づき、考え、実行する」生徒の育成を目指した実践研究を継続している。総合的な学習の時間「みどりタイム」や特別活動の時間に、花の選定、土作り、花壇や鉢への苗植え、灌水などの栽培計画を生徒自ら考え実行する活動を実践することで、受身的な栽培活動から自分たちで面倒を見ようという主体的な緑化活動に変容している。特に、各学級の「みどりタイム」の係を中心に、作業内容や人数の振り分けを主体的に行っている。

また、平成20年には、樹木にネームプレートを取り付け、学校敷地内の樹木に関する一覧表を作成し、興味・関心を高める取り組みを行った。活動を通して、校内の自然に关心を持ち、苗の生育状況や樹木・野草を観察する姿が見られるようになった。

さらに、生徒自らが育てた苗を地域の福祉施設や自治公民館、幼稚園等に贈る活動を通して、地域との交流を深め、また、地域の美化・清掃作業に積極的に参加するなど、地域の一員としての「自己有用感」も高まっている。